

## 令和2年度前期 学校評価アンケート考察

丹波篠山市立篠山中学校

本年度の学校評価アンケートは、4:あてはまる、3:少しあてはまる、2:あまりあてはまらない、1:あてはまらないとしており、数量的には等間隔と言えないが、増減の目安として平均値を、別添の集計表に記載し、本文中の( )に、令和元年度後期から令和2年度前期の増減を示している。

### I. 自らの命を守り抜く安全・防災・健康教育

- (生徒) あなたは、学校の集団生活のルールやマナーを守っている(0.1)  
(保護者) お子様は、登下校中など、交通安全に気をつけている(0.2)  
(教職員) 学校は、毎月の安全点検を確実にし、修理修繕によって事故・ケガの未然防止に努めている(0.8)

→ 新型コロナウイルス感染防止対策もあり、生徒・保護者・教職員が安全・健康に関して高い意識で取り組んでいる。今後も、家庭や地域、関係機関・団体と連携した防災防犯体制を確立するとともに、危険箇所の把握や予告なし避難訓練等の実践を通してさらに安全に対する意識の高揚を図る。

### II. 誇りを感じる学校・学級集団

- (生徒) あなたは、楽しく学校生活を送れている(0.1)  
(保護者) お子様は、楽しく学校に行っている(0.2)  
(教職員) 学校は生徒会を中心として「いじめ防止」に主体的に取り組ませている  
(新項目平均 教職員 2.3 生徒 3.1 保護者 3.3)

→ 長期休業日があったため、生徒会を中心とした「いじめゼロ宣言」の見直しができない。学活や道徳と関連させ、策定していく。また、学級活動・生徒会活動・学校行事をはじめ、部活動においても生徒の対話や協力を意図した活動を行い、学校生活の課題について、話し合い、合意形成、意思決定して改善する中で、課題解決力や人間関係形成・社会参画する力を育てる。

### III. 存在感や成就感を大切に生徒指導

- (生徒) 学校は生徒の悩みや不安に対して親身になって相談にのってくれる(±0)  
いじめを受けたり見かけたりしたら誰かに相談する(±0)  
篠山中学校情報機器取扱三箇条を守っている(▲0.4)  
(保護者) 学校はいじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めている(0.1)  
学校は子どもや保護者の悩み、思いをしっかり聞いている(0.2)  
情報機器の使い方について家庭で約束を決め守らせている(0.1)  
(教職員) いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解決をしている(±0)  
学校は情報機器の取扱について生徒会・PTA・警察と連携した取組を行っている(▲0.1)

→ 長期休業中にインターネットの使用時間が長くなり、使用目的が不適切な事例が見られる。ギガスクール(一人一台パソコンなど)を踏まえ、専門機関と連携を図りながら、情報機器の望ましい使用方法について指導していく。

いじめ対応については未然防止、早期発見、早期対応はもとより、発生時には加害生徒の人的成長を図る指導を組織的に行う。また、生徒指導や不登校の現状について生徒に丁寧に説明し、主体性・自律性の向上や生徒の相互援助の力を高める。

### IV. 豊かな人間性・社会性を育む道徳教育、人権教育

- (生徒) 道徳の時間に自分の考えを言葉で表現し人と交流している(0.1)  
(教職員) 道徳研修を意欲的に行い、道徳の授業の改善に努めている。(▲0.2)

→ 道徳の授業は学年単位でローテーション授業に取り組んでいるが、長期休業の影響で全ての教員の授業が実施できていない。今後、評価研究を含めた授業研究の充実、ローテーション授業の実施など「特別の教科 道徳」を要とし、教育活動全体で、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。(保護者参観は可能な方法を検討する)

### V. 将来や社会の糸口をつかむキャリア教育

- (生徒) あなたはふるさと篠山の良さを知っている。(0.1)  
あなたにはいいところがある(±0)  
(保護者) 学校は、生徒の自己理解、将来の職業、生き方等について、適切な進路指導を行っている(0.1)  
お子様は、ふるさと篠山の良さ(自然、文化、歴史)を知っている(0.2)  
(教職員) 篠山の伝統文化を理解し、生徒に伝えようとしている。(0.5)

- トライやる・ウィークの中止をはじめ、地域人材・教材の活用が難しい状況があった。今後、代替の社会体験をはじめ、可能な形で地域人材・教材の活用を進める。  
1・2年生段階から、キャリアノートの活用や地域貢献活動の参加をし、キャリア形成に資する個に応じた組織的・計画的な進路指導の充実を図る。

## VI. 基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善

- (生徒) あなたは、予習や復習などの家庭学習に取り組んでいる(0.3)  
学校の授業の中には、個人で考えるところ、ペア・グループで話し合うところ、それを発表するところがある(▲0.2)  
授業が楽しく分かりやすい(▲0.1)  
あなたは、学校の授業の中で、疑問や分からないことがあれば先生に尋ねて解決している(0.1)
- (保護者) 学校は楽しく分かる授業になるように工夫している(0.1)  
予習や復習などの家庭学習に取り組んでいる(0.1)  
学校は、授業の疑問や分からないことをていねいに教えてくれる(0.1)
- (教職員) 「篠中授業スタンダード」に基づいた授業をしている(▲0.2)  
予習や復習などの家庭学習に取り組ませている(±0)

- 予習復習など家庭学習習慣に上昇傾向が見られる。コロナ渦により対話など授業方法に工夫が求められるが、学習活動の重点化を図り、対話が必要な場面を適切に設定したり、授業以外で行う課題を適切に出題したりする。

授業スタンダード(予習・目標理解・個人思考・集団思考・振り返り)に基づき、各教科等の見方・考え方を鍛えながら「個」と「集団」を思考が行き来する指導を通し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。

## VII. 支え愛に満ちた活気あるコミュニティ・スクール

- (生徒) あなたは学校、地域でさわやかな元気のよい挨拶ができる(0.1)
- (保護者) お子様は家庭や地域の中で気持ちの良いあいさつができる(▲0.1)  
学校は、保護者や地域の意見を真摯に受け止め、連携を進めている(0.1)  
社会生活のルールやマナーが守れるようにしつけをしている(±0)
- (教職員) 爽やかなあいさつができる生徒を育てるために、自ら進んであいさつをしている(▲0.7)  
保護者・地域への広報活動を積極的に行っている(0.1)  
学校運営協議会を開催し、学校への意見聴取や環境美化活動、花いっぱい運動を積極的に行っている。(▲0.2)

- コロナ対策として外部の人に対して教師が大きな声であいさつができなかった。また、生徒の挨拶は年々よくなってきており、教師より先に挨拶ができている。さらに、教師と生徒の対話をもっとふやすため、①5分前入室・チャイムスタートや昼休み前後の相談、②保護者に対する素早い対応・連絡に重点的に取り組む。

コロナ対策で地域人材・教材を工夫しなければならない状況ではあるが、三密をさけながら地域人材の活用について学習支援を中心に進める。

1年生の生徒、保護者アンケートで無回答が多い項目があった。一つにはマークカードの記入方法に慣れていないことも考えられるが、学校再開後2ヶ月であったことや、参観日も中止とした関係上、回答しにくい内容があったと考えられる。今後、参観日の実施方法も検討しつつ、ホームページや学校・学年だよりでいっそう教育内容の見える化を図る。

## VIII. まごころで子どもとともに学ぶ教職員組織

- (教職員) 定時退庁の木曜日、18:30までに退庁している(0.3)  
あなたは、原則週2回のノー部活動デーを実行している(0.6)  
職員申し合わせ事項を意識して職務を行っている(▲0.1)

- 校務の効率的・効果的な実施、会議の効率化(会議資料の事前配布)、ノー部活デー(木曜日と土日いずれか)や定時退勤日の徹底、記録簿によるタイムマネジメント、計画的な年休取得など勤務時間の適正化を進める。

教職員のチームワークづくりには、自分の考えや思いを言葉で伝えることができる雰囲気が必要である。日頃の職員室、委員会、学年会議等で発言できる組織づくりを継続する。校務については、生徒の教育の効果を考慮しつつ、学校改革を中心に「選択と集中」を進める。